

3-19 障害者福祉施設（圏域：全市域）

3-19-1 施設再編の方針

対象施設
別府市身体障害者福祉センター
施設再編の方針
<p>▶ 体育室は、利用率 89.3%と高く、障がいのある方の優先利用となっており、車椅子バスケットボールのような激しいスポーツに利用されているため、他施設での代替は現状では厳しいことから、当面は存続の方向性としませんが、耐震調査の結果によっては、体育室機能の移転も検討します。また、障がいのある方の利用割合が少なく、一般市民の利用が大部分を占めているため、施設の設置目的を明確に整理したうえで、障がい者の利用を促進します。</p> <p>▶ 訓練室・会議室の現在の利用状況は、設立時の訓練室とは目的が異なっており、同建物にある事務所等を機能移転した後に、1棟を解体し、不足している駐車場の整備など施設利用者の利便性向上を図ります。</p>

3-19-2 現状分析

① 施設の概要

昭和 48 年に別府市が身体障がい者モデル都市の国指定を受け、身体障がい者の機能回復、体力の向上及び広く市民のレクリエーション活動に供することにより市民福祉の増進を図るため、昭和 50 年に設置されています。体育室は雇用能力開発機構が同年に建設したものを平成 15 年に購入し、現在は 2 棟を所有しています。訓練室は、現在、卓球場として使われており、同じ棟内に平成 18 年度から管理委託を行っている指定管理者（別府市身体障害者福祉団体協議会）の事務所と、会議室があります。

② ポートフォリオ分析結果

本用途は、市内に別府市身体障害者福祉センターのみであり、比較対象がないことからポートフォリオ分析は実施していません。

品質状況については、築年数が 40 年と古く耐震未対応の施設であるため、偏差値が低く算出されています。

供給状況については、諸室全体の利用率（会議室、訓練室（卓球台）、体育室）、1 日あたり利用者数で評価していますが、利用率は 26.4%に留まっており、1 日あたり利用者数も約 75 人となります。

財務状況については、利用者あたり市負担額で評価しており、68.9 千円・日/人となります。

台帳 番号	施設名称	占有面積 (㎡)	品質				平均 偏差値 (ハード)
			築年数 (年)	偏差値	耐震 対応率(%)	偏差値	
432	別府市身体障害者福祉センター	1,423.3	39.0	44.8	0.0	30.0	37.4

供給				財務		平均 偏差値 (ソフト)
利用率 (%)	偏差値	1日あたり 利用者数 (人/日)	偏差値	利用者あたり 市負担額 (千円・日/人)	偏差値	
26.4	—	75.6	—	68.9	—	—

図 55 各指標の基礎データ（身体障害者福祉センター）

③ 老朽化の状況

築 39 年が経過しており、老朽化が顕著です。また、旧耐震基準の建物で耐震化未対応です。

④ 利用状況

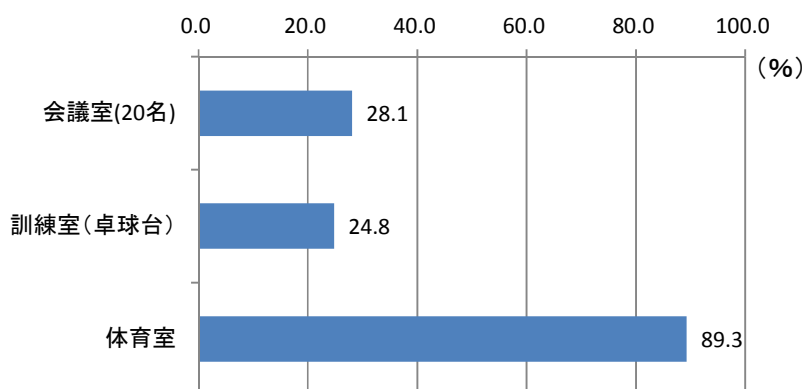
(i)年間利用者数・利用率

平成 26 年度の利用者は、23,447 人です。

体育室は、障がいのある方の優先利用となっており、月に 5 回程度、1 団体が車椅子バスケットに使用しています。体育室の利用率は 90% 近いものの、訓練室・会議室は 30% 以下と利用率が低くなっています。そのうち、障がいのある方の利用は、全体の約 15% (3,449 人) となっています。

訓練室の利用実態は、当初の設置目的に即した状況とはなっていないため、本機能について、今後のあり方を検討する必要があるといえます。

利用者の約 8 割が来館時に自家用車を利用していますが、敷地に空きスペースが少なく、駐車場が不足しています。



※平成 26 年度実績に基づいて作成

図 56 別府市身体障害者福祉センターにおける部屋ごとの利用率